

7月15日～8月15日は見直し摘果強化期間となります。

特に、早生種は収穫まで約1ヵ月となりましたので、着果量の見直しを急ぎましょう。

### 1、りんごの肥大状況

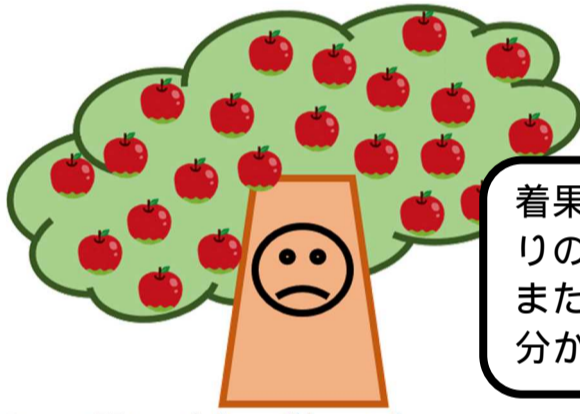
7月11日現在の果実肥大は、各品種で平年を上回る結果となりました。

単位：cm

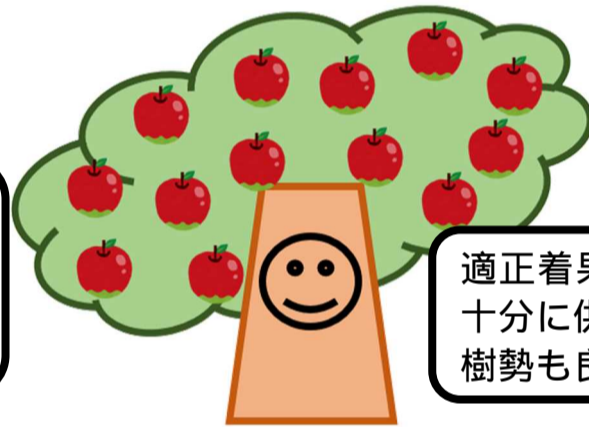
地点/品種	つがる	ジョナゴールド	王林	ふじ
中崎（平場）	6.5	5.6	5.6	5.6
住吉（中間）	6.5	6.1	5.4	5.7
弥生（山手）	5.9	5.7	5.1	4.5
管内平均	6.3	5.8	5.3	5.3
農協平均	6.3	5.9	5.6	5.5

### 2、摘果作業

今年も夏場の高温が予想されています。過着果は日ヤケ果や着色の他、来年の花芽形成にも影響しますので、適正着果を心がけ、収穫の早い早生種から、随時みなし摘果を進めましょう。



着果量が多いと、りんご1個あたりの養分は少なく、品質が低下。また、樹体、花芽形成に十分な養分が供給されなくなります。



適正着果にすると、養分が十分に供給され、花芽形成、樹勢も良好になります。

### 3、薬剤散布

散布時期 (散布日の目安)	対象病害虫	薬剤名 及び混合順序	倍数	1000 当り薬量	防除上の注意
10回目 7月末 (7月29日頃)	黒星病・褐斑病・炭そ病 斑点落葉病・すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 ナシメシクイ・ギンメシクイガ	ダイパワー水和剤 ダントツ水溶剤	1,000倍 4,000倍	1kg×1袋 250g×1本	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハダニの発生予察を行い、発生が早い場合は殺ダニ剤の早期散布を検討しましょう。</li> <li>アリエッティCは最後に混用しましょう。</li> <li>散布間隔は15日以内とし、降雨が予想される場合は、前倒して散布してください。</li> </ul>
11回目 8月半ば (8月12日頃)	黒星病・斑点落葉病・褐斑病 炭そ病 モシクイガ・ハダニ類 ナシメシクイ・ギンメシクイガ	オリオン水和剤 殺ダニ剤 アリエッティC水和剤	1,000倍 800倍	500g×2袋 1.25kg×1袋	
12回目 8月末 (8月26日頃)	斑点落葉病・炭そ病・輪紋病 すす病・褐斑病・黒星病 モシクイガ・ハダニ類 ナシメシクイ	ダイパワー水和剤 イカズチWDG	1,000倍 1,500倍	1kg×1袋 333g×2袋	
13回目 9月半ば (9月9日頃)	すす斑・すす点病 モシクイガ ナシメシクイ	オーソサイド水和剤 デリゲートWDG	800倍 10,000倍	1.25kg×1袋 100g×1袋	

薬剤名	ナミハダニ	リンゴハダニ	サビダニ	倍数	収穫前日数	効果発現程度	適要
コロマイト乳剤				1,000倍	前日	速効性(3~5日)	
マイトコーネフロアブル				1,000倍	前日	やや速効性(5~7日)	
オマイト水和剤				750倍	3日	やや速効性(5~7日)	8月以降に使用する。
スターマイトフロアブル				2,000倍	前日	速効性(3~5日)	

#### 農作業中事故の防止について

気象庁の1ヵ月予報では気温が平年並みから高い予報となっております。農作業中の事故には十分注意し、作業を行いましょう。

